



野寺小だより 2月号

たんぽぽのように やさしく つよく のびのびと
～家庭・地域とともに一人一人が輝く野寺小学校～

令和6年2月1日

読書しようぜ。

岡田 智彦

残念ながら本校の子供たちの読書量は必要十分の範囲になく、1学期に4・5・6年生が受検した埼玉県学力学習状況調査結果の分析において課題の一つとしてあがっています。

読書が学力向上に有効であることは言わずもがなですが、一般的に読解力の獲得には多読と精読が必要と言われます。多読とは読んで字のごとく「多く読む」という意味で、ジャンルや作者を問わず、様々な本を読むことで、多くのパターンや癖のある文章に対応できるようになります。これと違い、精読はいわゆる国語の授業で行うような分析読みです。「それ」が何を指すか、この時の主人公の心情はどんなものか、それは本文のどこに叙述されているか、できる限り深く文章を読み解いていきます。YouTubeでよく見られる漫画やドラマの深堀り考察にも似たようなもので、学習場面でなくともやってみるとなかなか面白いものです。ただ、精読は毎日の授業で行っているため、ここでは多読をお勧めします。まだ経験値が高くない子供たちにはたくさんの種類の本を読んで見聞を広め、興味・関心の範囲を広げてもらいましょう。野球や泥だんご、Switch、TikTokの他にも子供たちが夢中になれるものは世にあふれています。広く浅い知識のインプットは子供たちが自らの特性を活かし、将来どのような道に進むかを悩みながら選択していく過程においてアドバンテージとなります。

読書を習慣化させるのはさほど難しくはありませんが、ご家族の協力が必要です。まず、いつでも《読みかけの本》を用意しておきましょう。個人的には《読みかけの本》ほど、気になるものはなかなかないと思っています。逆に考えると、気にならない《読みかけの本》など、多読の世界において今後読むことは一切不要です。めあての本は、本屋で買っても、図書館で借りても、Amazonでポチってもよいでしょう。家族全員分が必要です。参加者が多いほど意欲は増します。本が揃ったら毎日できるだけ決まった時刻にみんなで読書します。時間設定は15～30分間程度。もちろんテレビも音楽も消します。物語が佳境に入ってくると設定した時間よりも長く読みたくなってしまいます。時間が許すようであれば、それは一向に構いませんが、次のターンで読み終えそうになったときは、必ずその次の一冊を用意しておくようにしましょう。いつも読みかけにしておくことが継続のこつです。

野寺小図書室の前には先生方のおすすめの本が書店のポップアップさながら掲示してあります。私が紹介したのは、小学生のころに熱病にうなされるほど夢中になったジュール・ヴェルヌの名作『海底二万マイル』です。当時の装丁そのままのものが今もあり、ページをめくると場面面で少年時代を追体験するような感覚に陥りますが、その頃感じたような本の中に吸い込まれるほどの没入感を味わうまでには至りません。すでに、多くを経験し過ぎてしまったのだと思います。

野寺小の子供たちにも感受性豊かな少年少女の時期に夢中になれる本に出会い、震えるような興奮・高揚感を味わってほしいと心から思います。